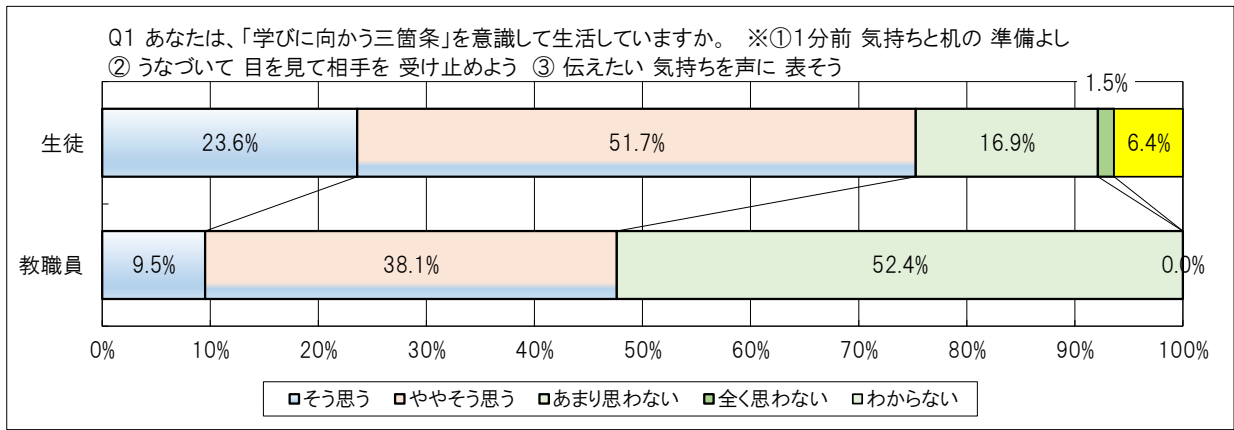
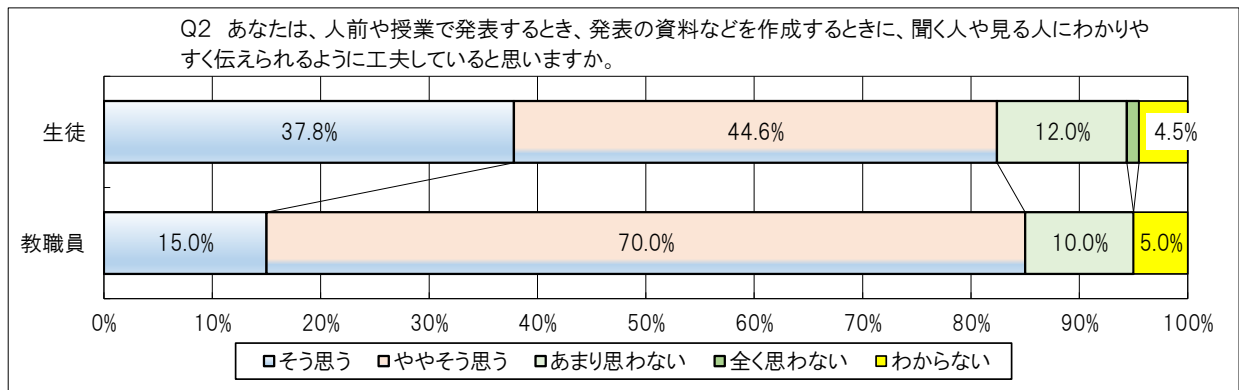


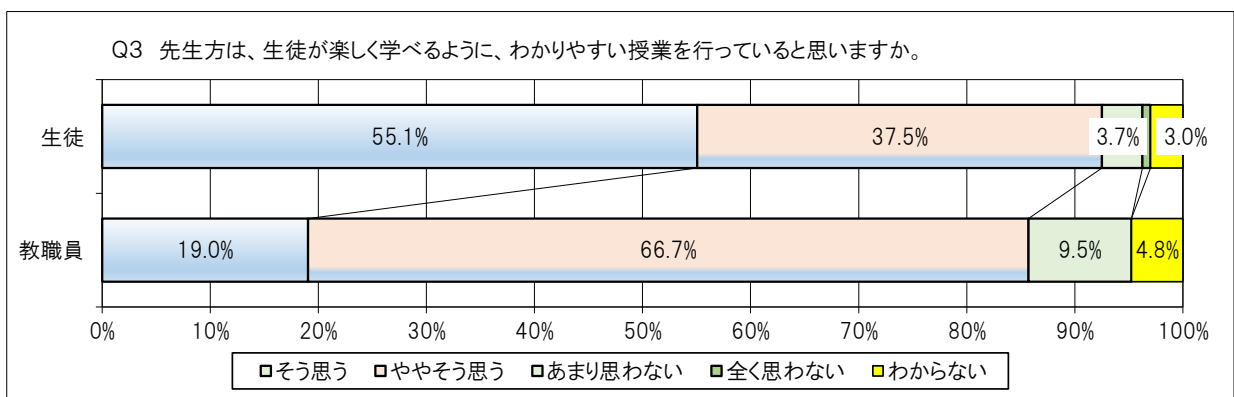
令和5年度 全校生徒、教職員 アンケート結果【前期】



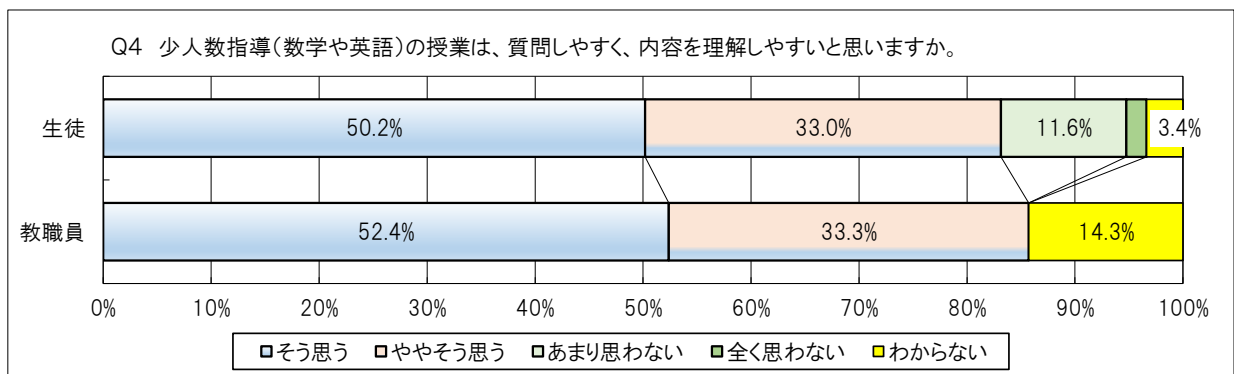
教師が率先して時間を守る姿を見せることで、生徒の意識が高まるようにしていきます。
また、週一回のコミュニケーションタイムや授業時間を使って、自分の考えを話したり、仲間の考えを聴く機会を増やしたりすることによって、更に授業内に関わり合いができるようにしていきます。



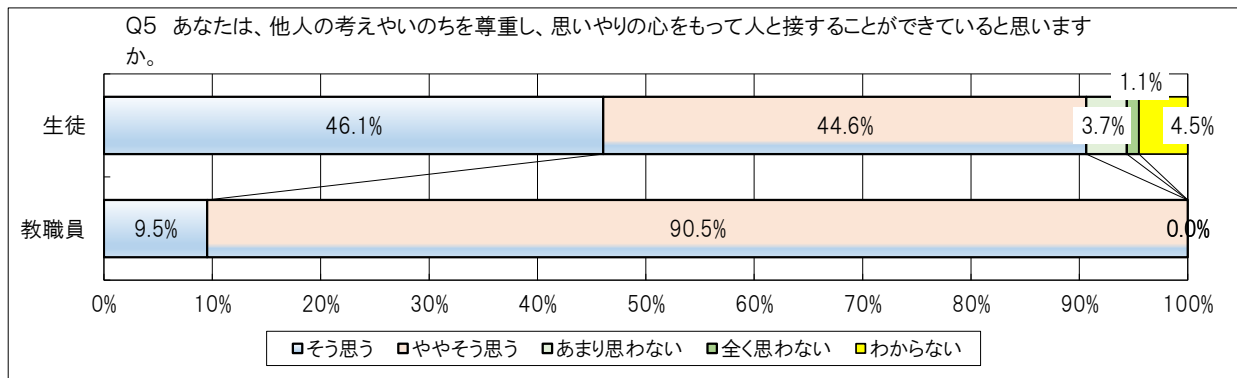
追究課題の発表等では、スケッチブックやポスターなどで図表や絵を提示したり、タブレット端末にあるパワーポイントを利用したりして、視覚的にわかりやすく伝える生徒が多く見られました。教師側も、パワーポイント利用によるプレゼンテーションや資料提示の機会を増やし、聞く人や見る人を意識した伝え方を生徒に意識づけるようにしていきます。



「楽しい」というのは単なる「おもしろさ」だけでなく、新しい発見をしたり、わからなかったことがわかったりしたときの楽しさを指しています。
また、学習内容がわかるだけでなく、自分に最適な学びを自分で決めていけるような力が身につく授業を追究していきます。

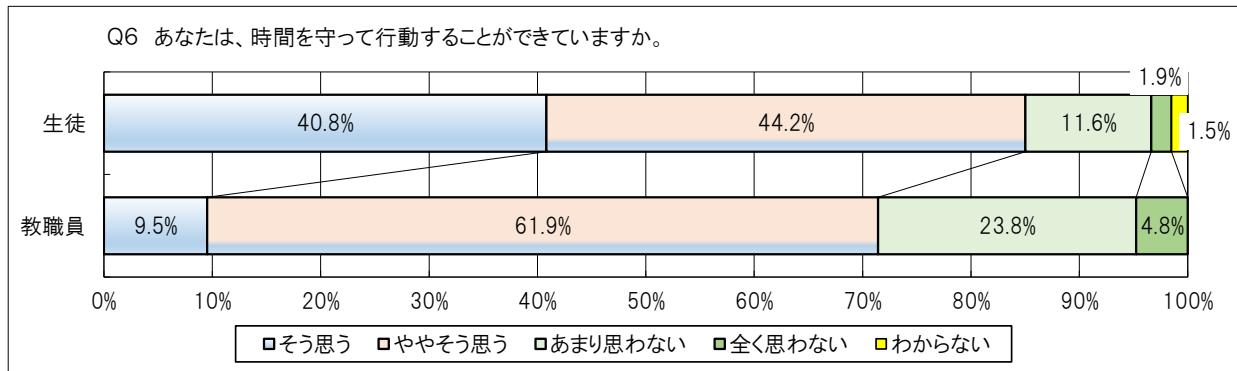


本年度から1・2年生の数学と英語で目的別コース選択制の授業を導入しています。
自分でコースを選ぶことで今まで以上に個人のニーズに合った学びができるようになったと考えています。授業を実践しながら更に学習効果が上がる方法を模索していきます。

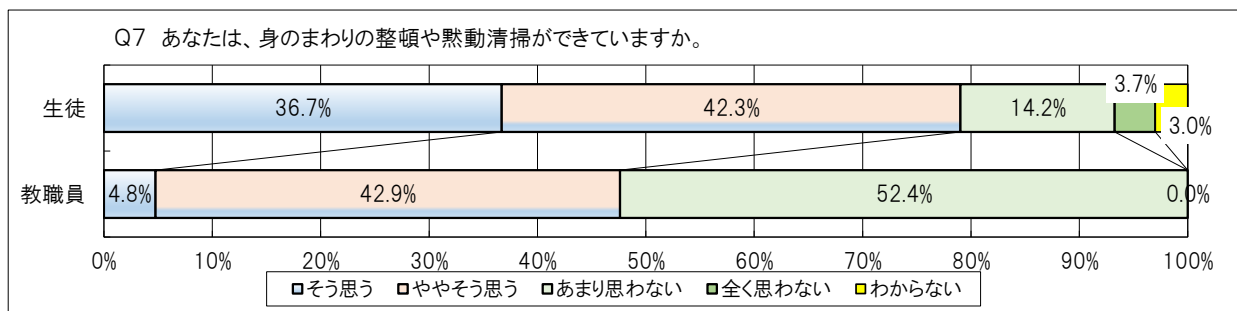


昨年度と同様9割以上の生徒の評価が高く、教職員の評価も向上していることはよい傾向にあると捉えています。しかし、1割の生徒たちは「思わない」と感じていることに注目していく必要があります。

なによりも、いのちに関わることを大切に教育活動に取り組んでいきます。

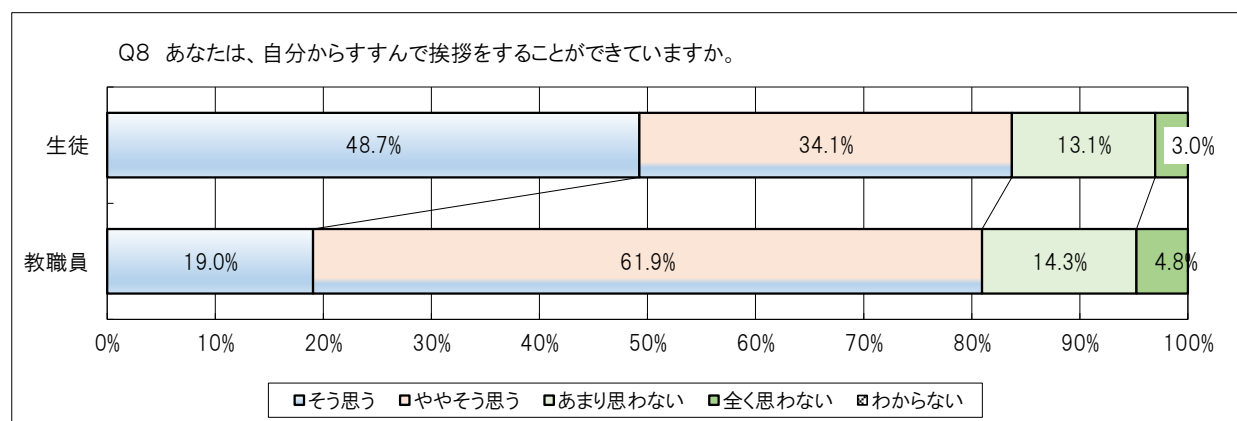


生徒と教職員の評価結果に開きがある理由として、生徒たちは自分を客観視するという点で成長の余地があると捉えています。社会に出た時の状況をイメージさせる投げかけや行動の振り返りを積み上げていくことで、生徒の成長をサポートしていきます。



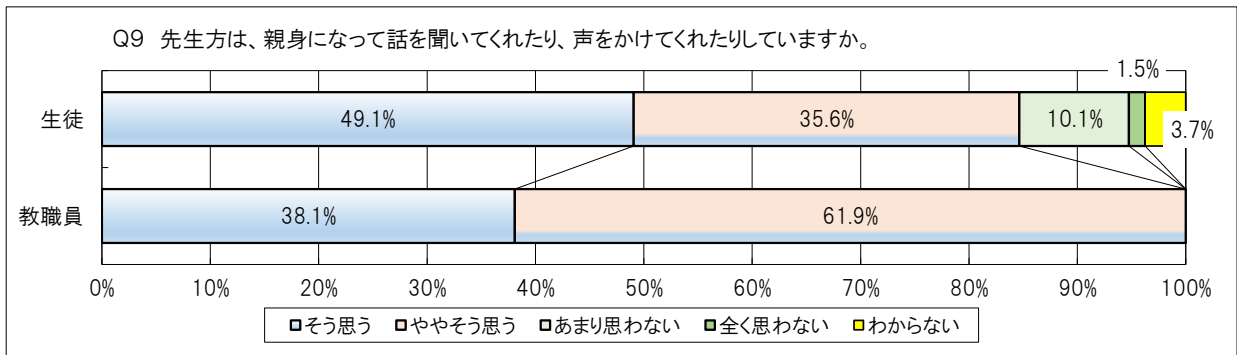
自分の使った場所を自分できれいにすることは、社会性を身につけ自立するための第一歩です。

日本人が海外で評価されるよさでもあります。ものが美しく整理された環境の気持ちよさを大切にし、週3回の掃除の時間や学校生活を通して生徒たちと共に環境づくりに取り組んでいきます。

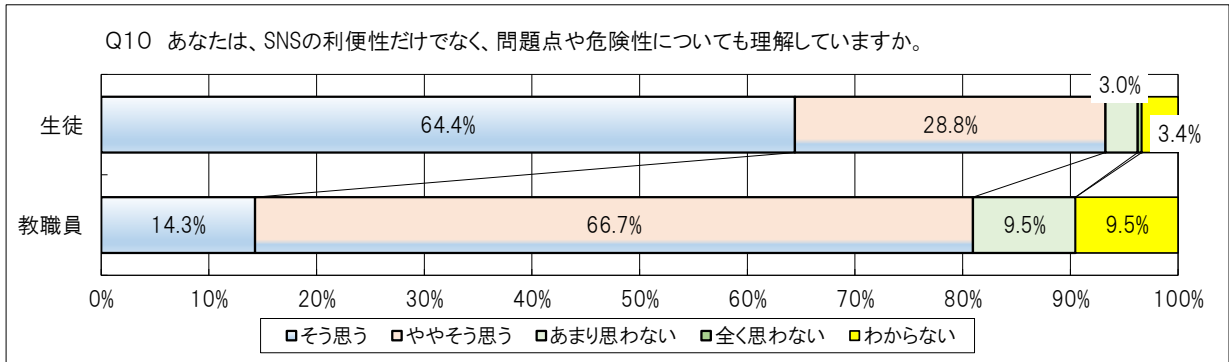


昨年度より教職員の評価が上がり、生徒ともに8割以上がすすんで挨拶ができるという結果になりました。

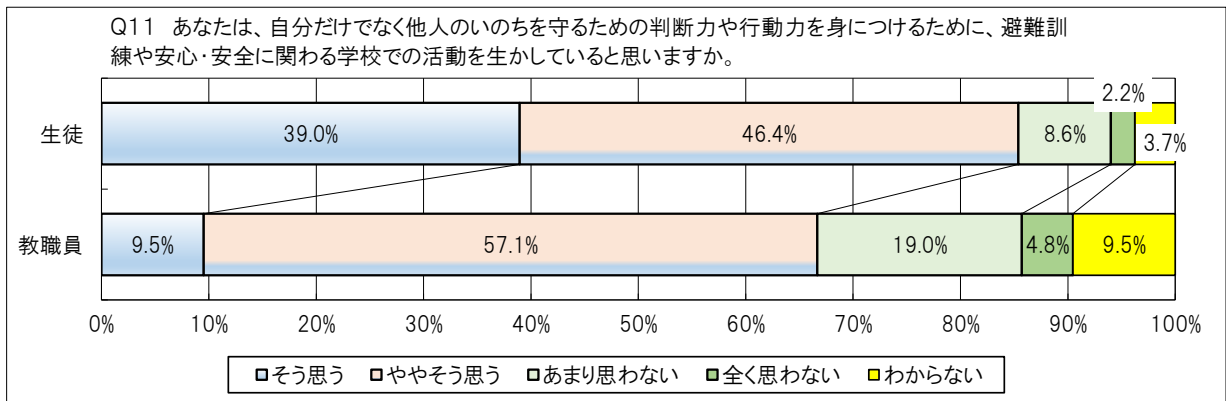
気持ちのよい挨拶は、人とのつながりを深め、更には相手の信用を得ることができます。挨拶の役割を学校生活のあらゆる場面で伝え、さわやかな挨拶が飛び交う温かい学校づくりをめざしていきます。



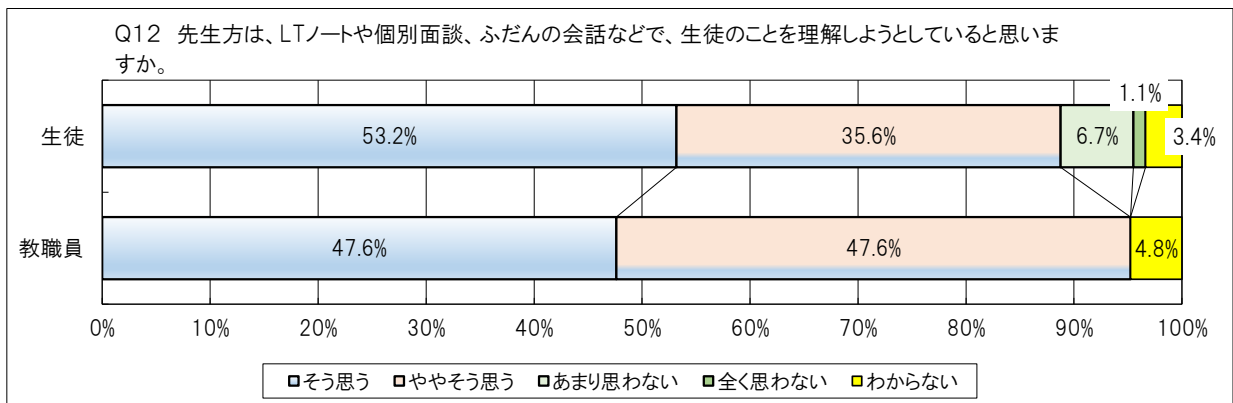
約15%の生徒が否定的に捉えていることに注視する必要があると感じています。
 多感な中学生にとって、教職員が悩みや心配ごとを話せる存在になれるよう、日頃から温かい声かけを心がけることや、生徒たちと関わり合えるゆとりのある時間をつくっていききたいと考えます。



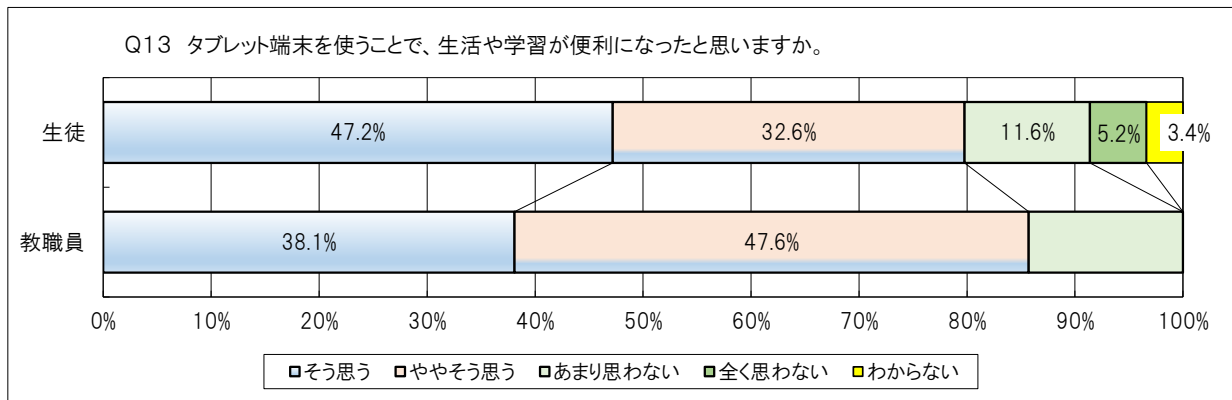
生徒は大丈夫だと考えていても、教職員は生徒のSNSの使い方に少し不安を感じているようです。
 SNS等の講習会を行うだけでなく、SNS上での関わりがふだんの生活での関わりと変わりがないと捉え、よりよい人間関係をつくれるように支援していきます。



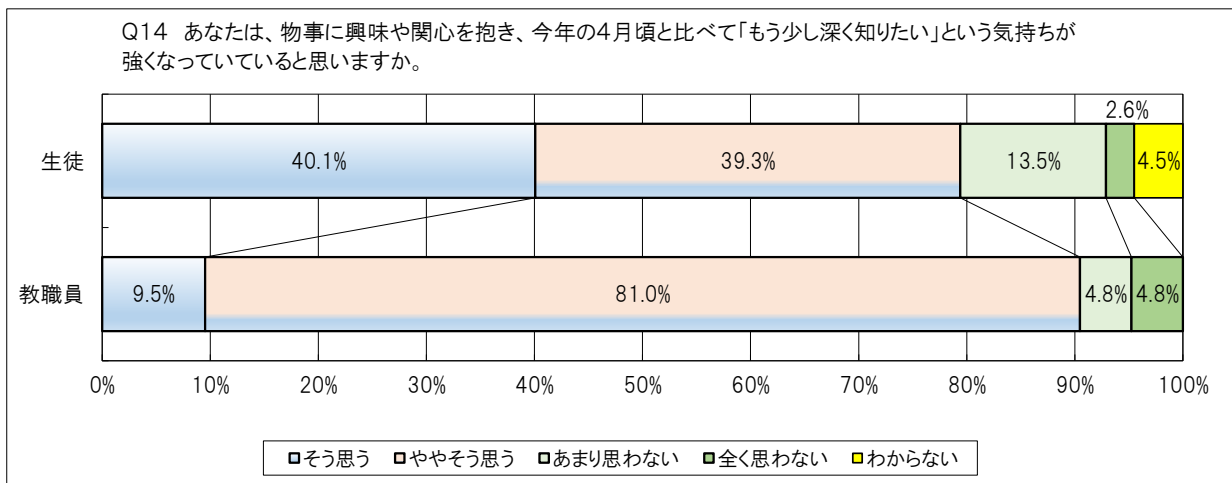
表面に見えない危険を事前に察知して回避する必要があるため、教職員はこの問いを難しいことだと捉えています。
 1月には防犯に関する訓練を予定しています。中学生として、安全を優先した行動を考える機会をつくり、危険を察知し対応する知識や技能を高めていきます。



LTノートでのやり取りは、生徒たちの日々感じていることや学校外の生活の様子などに触れるよい機会となっています。
 学校教育においては、生徒理解がなによりも大切になります。今後も学校生活のあらゆる場面で生徒のよい姿を認め、教職員間で伝え合い生徒を育てていきたいと考えます。



調べ学習やまとめ学習など、授業の多くの場面でタブレット端末を活用しています。ICT機器を活用することで学習効率が高められるように、各教科に合った活用方法を研究していきます。また、各種アンケートや行事の振り返り、たよりの配付等、さまざまな使い方を模索しています。同時に、生徒自身に必要な情報を正しく選択できる力もつけさせていきたいと考えています。



教師は、生徒が自ら学びたいような学習課題を見つけ、それを追究していく手助けをしています。今後は、その気持ちが更に高まるよう、仲間との意見交換を通して、多様な意見に触れたり、そこから自分の考えを更に深めたりできるような授業を展開していきます。